

市長と語る タウンミーティング
テーマ「災害に強いまちづくり」

日 時 平成24年7月19日 午後7時5分～8時30分
会 場 上野台団地集会所（上野台自治会）
天 気 晴れ

参加者 51人

主な意見等（◆・・・参加者 ☆・・・市長）

◆備蓄品がどこに何日分あるのか。

☆避難場所の学校などの防災倉庫にパンや缶詰を備蓄している。災害発生から3日間は重要と言いましたが、食糧については1日2食で、市が1日、県が1日、各家庭での1日分で計3日間分としています。

◆中央公園の飲料水はどうなっているのか。

☆現在も使用できます。常に流れるようになっていて、いざという時に貯留するようになるものです。

◆昨年の震災ですごく揺れた。上野台団地は震度7まで大丈夫となっているが、震災を経たこの団地は震度7まで大丈夫なのか。

☆構造計算上は大丈夫となっている。地震の時にテレビに震度が出るが、この地域は富士見市や三芳町より震度が低い傾向にあり、地盤がよいと言われている。

◆震災時に問題なのは、家具などが倒れて怪我をすること。市として対策はあるのか。

☆基本的には自分で対策をしてもらうこととなる。ただし、「地域支え愛」という事業があり、1時間300円で困りごとに対応してもらえるもので、この事業も活用して市民同士で助け合ってほしい。

◆震災時に冷蔵庫などが大きく揺れ、息子にすぐに棚などとともに留めてもらった。すぐにやるべきことと感じた。

☆上野台団地は潰れない構造となっていると思う。市役所の耐震診断を実施したところ、3階の県道側の市長室が一番危険とされた。防災セミナーでは、司令塔の市長室は絶対崩れないようにしなさいと言われた。阪神淡路大震災では、タンスなどの家具の倒壊による圧死が多かった、関東大震災は火災、東日本大震災は津波であった。皆さんが普段主に生活している所には家具を置かないようにしてほしい。家具は集中して置いたり、使わない部屋などに置くようにしてほしい。昭和56年以前の木造家屋は耐震性を満たしていない。しかし、建替えることは費用的に難しいので、自分が生活している部屋だけ耐震性を強くする方法など費用を抑える手法もある。

- ◆障がい者用の避難所がない。特に知的障がい者用のものがない。市としての対策は。
- ☆障がい者の方や要介護度3以上の方は、福祉施設に避難してもらうこととなっている。
- ◆実際に知的障がい者の方が老人福祉施設などに避難したらすぐに退去させられる。被災地の避難所にはそういう方はいなかった。皆、車の中などで生活していた。対策を考えてほしい。
- ☆課題の1つと考えている。知的、精神の障がいの方は、環境が変わるだけでパニックになったりする。防災セミナーの中で、私もそういう方をどう避難させたのか聞いたかったので質問したところ、答えは、なるべくなら使い慣れた作業所や住み慣れた場所に帰ることが一番安心するとのことであった。
- ◆障がい者を隔離して避難させてほしい。
- ☆防災計画の見直しの中で検討したい。
- ◆職員が700名を切っているとのことであるが、休日や夜間に災害があった場合、機能をどのように復旧するのか。
- ☆各会場でお話しすることが、災害は発生する時間帯によって想定が違ってしまいうということ。平日か土日か、昼間か夜か深夜か、夏か冬かによって相当違ってくる。職員もできれば3日以内に参集してほしいが、職員が遠方にいたり、家族の安否を確認してから駆け付けることもあるので難しい部分がある。今年の3月に自転車か徒歩かバイクによる職員参集訓練を実施したが正午までに約9割が参集した。しかし、実際に災害が発生すれば橋が落ち、道路も壊れるので、そこまでの参集は難しいと思う。そういうこともあり初動の72時間と言われているのかもしれない。
- ◆実家が仙台市にあり、被災し何もなくなっていた。家は倒れなかったがライフラインが壊滅したので避難所に水をもらいに行ったら避難している人以外に渡せないと言われた。皆に平等に渡してほしい。市としても検討してほしい。
- ☆家がなんとかあった人が避難所に配給されたものをもらえない事が各地にあったようです。避難所で炊き出しをした時に自治会に入っていない人にはあげないということとはできない。地域によっては、3割しか自治会に入っていない地域もある。若い人で転入してきた人ほど自治会に入るメリットがないと言って入らない。しかし、明日起こるかもしれない災害時のために、また、これから災害に強いまちを作るためにだけでもよいので自治会に参加して、いざという時のために絆を作ることが大切。先ほどの家に避難している人への食糧の配給などは行政ではどうにもできないことで、避難所を地域の方が運営し、リーダーシップを発揮しないとできないこと。この間参加した防災セミナーでの話の中で、今回の災害は沿岸がひどかったため、内陸の遠野市が岩手県と協力して支援をしていた。しかし、発生直後から遺体が運ばれてきたので焼却場を貸していたがあまりに多くなり県に相談したら、費用は持つと言われた。遠野市長

は、お金の問題ではなく県が近隣県や市町村にも協力を依頼すべきで県がリーダーシップを発揮するべきだと言った話があった。本市のしののめの里でも受け入れをした。災害発生時には、早期の統率が大切で、それができれば避難所での食糧配給もスムーズに進む。災害時に家に避難している人には食糧などを渡さないということは有り得ないことで、そういうことがない街を皆で作る必要がある。

◆簡易トイレはどのようになっているのか。

☆避難所生活になる人の想定が11,363人で、50人に1人分のトイレを備えている。中央公園にマンホールトイレが用意できる。家に避難しても水が出ずにトイレが使用できない人も利用できます。また、簡易トイレも設置できる。簡易トイレの備蓄数は250個位であるが、今後増やしていきたい。しかし、各自治会や家庭でも備えてほしい。トイレと食糧と水は大切。

◆3.11の時にエレベータが止まり、デイサービスから帰ってきた方が上の階まで上がるのが大変だった。

☆号棟ごとや自治会などで、高齢者の方などを電気が復旧するまで地域や自治会で支え合う共助の部分を作ってほしい。

◆ここの避難所である上野台小学校はどの地域が対象となるのか。

☆上野台1・2丁目、上野台3丁目の一部、大原1・2丁目、上福岡1丁目、北野1・2丁目、清見1丁目と福岡1丁目と元福岡1丁目の一部です。

☆必ずどこの会場でもこの話をするのですが、この地域は建物が崩れない前提があるが、いざとなると避難所に避難してもらうこととなるが、まずは地震が発生した時には避難所に避難するのではないということ。家以外の外や店で遭遇することもあり、その時に一番大切なことは安全な場所に身を置くこと。木造住宅の密集している地域で冬の北風が吹いている夕食時であれば火災が多発する。そういう時には、煙が上がっている避難所方面に行くのではなく、近くの畑など安全な場所にまずは逃げてほしい。それから命を守った人たちが落ち着いてから避難所に行ってほしい。この間の防災セミナーで、釜石の奇跡の話があり、学校を休んだ子だけが犠牲になった。群馬大学の片田先生が地域で会合を開くが決まった人しか集まらず、関心のない人は集まらない。そこで子供への教育に力を入れた。地震があった時、まずは子供が逃げればお母さんも子供を迎えに来ないで逃げることを教え、皆がおのこの安全な場所に逃げれば皆が助かることを教育した。その子供が大人になりそういう街になる。災害に強い街をつくるにはそういう教育が必要で、教育委員会にだけ任せてはだめと言われた。釜石の子供たちは、逃げることは恥ずかしいことではない、まず自分の命を助けなさい、そして助かった命で弱い人を助けなさい、逃げるリーダーになりなさいと教えられている。

ここの集会所も皆さんが利用しなくても家が崩れてしまった方が避難してくるかもしれない。その時は、皆で支えてほしい。また、家が崩れなくても家具

の倒壊で怪我をするかもしれない。隣近所で家具の固定をできる人がいれば、お年寄りを手伝うなど支え合う関係を作ってほしい。

◆想定に東海地震が入っていないが。

☆東海地震の方が確率は高い。しかし、その地震では、本市は震度6.3までにはならないと想定している。しかし、現在、国が見直しをしているので、盛り込む必要があるかと考えている。東海地震の発生確率は、30年以内に80%、首都直下型地震は、30年以内に70%の確率。過去のサイクルから東日本大震災が発生したことを考えるとかなり高い確率で発生すると言われている。学者たちは、生きているうちに絶対地震は来ると言っている。

◆今度、近くに老人福祉施設ができるので、災害時に障がい者が使用できるようにお願いしてほしい。

☆完成する前であれば可能かと思うので、話をしてみます。協定を結んで、計画の中に明記していきたい。新しくできる施設には交渉していきたい。

◆防災無線が聞こえにくい。風の向きにより違う。

☆9月12日に北朝鮮のミサイル攻撃や津波、地震などの緊急情報を流す全国瞬時警報システム、Jアラートを消防庁が全国一斉にテストします。その時、通常、音量を8割程度にしているものを、10割で流しますので、確認をしてほしい。回覧でも回しますが、市報でも内容を掲載します。また、12月2日の防災訓練の時にも音量10割で流します。